

## 1 学校教育目標

なんでもがんばる東綾瀬 ～自らの伸びや高まりを実感できる学校～

○ すすんで学ぶ子      ○ 助け合う子      ○ 体をきたえる子

## 2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 子供が学ぶ喜び、友達とかかわり合う喜びを味わえる楽しい学校</li> <li>○ 教職員が一体となって子供の育ちを支え、その成長を共に喜び合える学校</li> <li>○ 保護者が我が子を通わせてよかったと実感でき、地域からも信頼される学校</li> </ul>
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 話をしっかりと聞き、主体的に学び、自分の考えや思いを表現できる児童</li> <li>○ 互いの違いとよさを認め、仲良く助け合い、協力し合って活動できる児童</li> <li>○ すすんで体を動かし、心身共に健康で自分のめあての実現を目指して努力できる児童</li> </ul>
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童に敬愛され、保護者・地域からも信頼される教師</li> <li>○ 児童に求めることは、自らも率先垂範する自己に厳しい教師</li> <li>○ 学校に求められる課題を主体的に受け止め、経営参画意識をもって取り組む教師</li> </ul>

## 3 学校の現状及び前年度の成果と課題

### (1) 学校の現状

#### ① 児童

明るく素直な児童が多い。前向きに何事にも取り組もうとする積極性が見られる。学習に対しても真面目に取り組み、各学力調査では概ね平均を上回ることができていると考える。一方で、学習における個々の能力差や生活指導の規律徹底、また豊かな心の育成や誰にでも公平に接する態度などには、継続した指導が必要である。コミュニケーションに課題のある児童に対し教職員全体で対応し、必要な児童には介助員を配置している。緊急時には校内体制をとることも多々あり、学校全体として組織的対応を続けていくことが、継続的課題であり目標である。

#### ② 教師

児童理解に努め、厳しさと愛情をもって児童に接している。校長の学校経営方針を理解し、その実現のために努力しており、よりよい授業を目指して日常の教材研究にも熱心に取り組んでいる。全ての教師が一枚岩となって共通行動を行っていくことを継続して啓発し、これからも保護者や地域の方々の信頼をより高めていく必要がある。また特に若手教員は、教員としてのスキルに関する基礎基本をしっかりと身に付けさせることが必要である。

#### ③ 保護者・地域

地域の方々も学校創立から携わっている方も多く学校に対する思いは熱い。地域と学校を結び付けて子供たちの健全育成を考えている方が多い。保護者の学校行事等への参加・協力も積極的である。潜在する保護者や地域の思いや願いにも耳を傾けつつ、学校経営に生かしていく。

### (2) 前年度の成果と課題

#### ① 学力向上

・足立スタンダードに基づく授業を積み重ね、基礎的・基本的な内容の定着を図ることができた。引き続き、AIドリル等も活用しつつ個に応じた指導を行う時間を確保し、基礎・基本の更なる定着に努める。

・「活用力向上ガイドライン」に基づく算数授業を展開し、思考力・判断力・表現力等の育成に努めた。この授業スタイルを他教科にも広げるとともに、新たな教育課題や教員各自の専門分野の研究を促し、指導力の向上に努める。

・パワーアップタイムや放課後補習の取組に工夫を重ね、全校体制で基礎的・基本的内容の定着に努めた。また、学習支援員やそだち指導員との連携を図り、個に応じた学習指導の効果的实施に努めた。

② 体力向上

・日常の体育学習の充実を図ることを柱として、運動遊びや運動の日常化を推進している。今後も外遊びの励行など遊びや運動の日常化を推進していくとともに、引き続き児童がスポーツに親しむ機会を確保していく。

③ 豊かな心の育成

・道徳授業、道徳教育の一層の推進を図る。週1時間の道徳の時間を充実させるとともに課題解決的な学習の中で豊かな心の成長を進める。

・教員の意識改革を進めるとともに組織的な生活指導体制を充実させることで、いじめ等の問題の早期発見・解決を実現に取り組むことができた。不登校傾向の児童や特別に支援の必要な児童への働きかけを継続し、状況の改善に努める。

④ 働き方改革

・行事の削減や会議の精選、C4thの活用等推進した結果、超過勤務や休日出勤は減少した。しかし月ごとの超過勤務時間45時間以内は達成できていない教員がまだ数名いる。引き続き校務分掌の弾力的な運用など改革が必要と考える。

## 4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R4	R5	R6	R7	R8
1	学力向上アクションプラン	○	○	◎	○	○
2	豊かな心の育成	◎	◎	◎	○	○
3	体力向上	◎	◎	◎	○	○
4						

## 5 令和5年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
4月実施の足立区学力向上に関する総合調査結果の目標達成		区学力調査 通過率国語 83%算数 80%							
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクション プラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●

継続	ベーシック スクール (学習に内 容を絞る)	基礎学力 に課題の ある 4～6年 生18名	毎月1 回金の 放課後	【指導体制】 企画委員以外の教員が計算 と運動に分かれて指導 ・AIドリルを活用した課題 別学習指導	AIドリル 年3回の診断 テスト	対象児童の診断 テストの正答率 70%以上			
継続	ショートパ ワーアップ タイム (SPU)	全児童 計算・活 用・読書 ・漢字等	毎週 月～金 昼休み 後15分	【指導体制】 担任+専科+管理職 ・読むことへの興味、読解力 定着、計算力、活用力の向上	単元テスト (国語・算数) AIドリル	2月実施の到達 度テストで80% の児童が正答率 65%を超える。			
継続	ICTの活 用	全学年、 全教科	通年	【指導体制】教員 講師 ・デジタル教科書をはじめI CTを活用し、学習内容の確 かな定着を図る。校内研修で 教員のスキルアップを図る	授業観察、各 種研究授業に おいて年2回 ICT活用し た授業を公開	児童のアンケー トでICTを使 った授業が楽し いなど肯定的な 意見が90%以上			
継続・ 新規	定着度テス ト(新規: リベンジテ スト)	全児童 国語 ・算数	9月、 11月、 1月の 計3回	【指導体制】担任+学力評価 委員会 ・国・算の学習の定着度の評 価を行うために、長期休業前 後で類似のテストを行い休業 中の学習のめあてにする。	定着度テスト (9、11月、 1月)前年度 ～4月調査で 明確化された 課題に焦点を 当て行う。	2回目のテスト は、1回目より、 正答率を5%以 上向上。最終的 に正答率を80% 以上にする。			
継続	朝読書	全児童	始業前 朝読書 SPU 図書 の時間	【指導体制】担任+図書館支 援員+図書館ボランティア ・読書時間を確保し読書好 きを育て読解力を高める	読書通帳 読書旬間の児 童アンケート	年度末学校評価 アンケートで意 欲的に読書に取り 組む80%以上			

<b>重点的な取組事項－2</b>		豊かな心の育成			
<b>A 今年度の成果目標</b>		<b>達成基準</b>	<b>実施結果</b>	<b>コメント・課題</b>	<b>達成度</b>
「あいさつ・返事・靴そろえ」を基本とし、思いやりの心もち、仲よく助け合い、協力して活動できる子を育成する。		○全教員が道徳科での校内授業を行う。 自己評価8割以上。 ○「心と体の元気チェック」における児童の自己肯定感に関する項目について80%以上が肯定的と回答			
<b>B 目標実現に向けた取組み</b>					
<b>項目</b>	<b>達成基準</b>	<b>具体的な方策</b>	<b>実施結果</b>	<b>コメント・課題</b>	<b>達成度</b>

道徳教育と児童理解に基づいた生活指導体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校評価アンケートにおける人権教育に関する項目について肯定的評価 95%以上</li> <li>○児童へのアンケート「思いやり、礼儀、規範意識」に関する項目についての肯定的評価が 90%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎週木曜に生活指導夕会を実施。児童情報を共有する</li> <li>・SC の活用と諸機関との連携</li> <li>・GoogleForm を活用した「児童アンケート」の実施と QU からの分析</li> <li>・「いじめアンケート」の実施と結果に対する迅速対応</li> <li>・特別な教科道徳の授業で人との関わりを重点的に指導</li> </ul>			
学校行事・体験的活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校評価アンケートにおける行事や体験的活動に関する項目で肯定的評価 95%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・異学年「七色フレンズ班活動」の充実</li> <li>・挨拶運動の通年化、清掃活動の実施</li> <li>・幼保園児との交流活動</li> <li>・全学級が道徳授業を公開</li> </ul>			

<b>重点的な取組事項－3</b>		体力向上			
<b>A 今年度の成果目標</b>	<b>達成基準</b>	<b>実施結果</b>	<b>コメント・課題</b>	<b>達成度</b>	
運動する楽しさや友達と競い合う楽しさを味わわせることを通して、自ら運動に親しむ態度と体力の向上を図る。	○体力テストの総合評価における A B 評価 45%以上、D E 評価 20%以下				
<b>項目</b>	<b>達成基準</b>	<b>具体的な方策</b>			
遊びや運動の日常化	<ul style="list-style-type: none"> <li>○中休みの外遊び参加児童 90%以上</li> <li>○体育朝会の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「中休みは全員外遊び」の徹底と外遊びの安全管理</li> <li>・体育朝会を毎月効果的実施</li> <li>・「長なわ」「持久走」の強化</li> <li>・区スポーツ大会への参加</li> </ul>			

<p>外部、地域、保護者とも連携した体育科の授業改善</p>	<p>○体育好き児童 95%以上 ○授業における 30 分間の主運動時間確保 ○体力向上に関する取り組みについて肯定的評価 90%以上</p>	<p>・GoogleForm を活用した「児童アンケート」の実施 ・beyond2020 を意識し、外部連携した体力テストの実施</p>			
--------------------------------	---	--	--	--	--

## 6 まとめ